

秘

海軍公報 第五〇七九號

昭和二十年七月二十五日(水) 海軍大臣官房

○令 達

内令第六四〇號(軍機秘海軍公報第一六九號(乙配付)ニ掲載)

内令第六四一號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

第五十二驅逐隊ノ項中「楡」ヲ「樺」ニ改ム

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第六四二號

輸送隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

第三十一輸送隊ノ項中「第二十號」ノ下ニ「第二十一號」ヲ加フ

(内令提要卷一、七四頁参照)

内令第六四三號

横須賀鎮守府豫備驅逐艦

右警備驅逐艦ト定メラル

吳鎮守府豫備驅逐艦
驅逐艦 樺
驅逐艦 楡

伊號第五百一潜水艦
伊號第五百二潜水艦
伊號第五百三潜水艦
伊號第五百四潜水艦
伊號第五百五潜水艦
伊號第五百六潜水艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

横須賀鎮守府豫備艦

右特殊警備艦ト定ム

横須賀鎮守府豫備驅逐艦

驅逐艦 柿
驅逐艦 楠
驅逐艦 荳
驅逐艦 初
驅逐艦 櫻

20.8.1

2601

海軍公報 第五〇七九號 昭和二十年七月二十五日

八二二

<p>吳鎮守府豫備驅逐艦 驅逐艦 楢 驅逐艦 楢 佐世保鎮守府豫備驅逐艦 驅逐艦 楢 驅逐艦 雄 舞鶴鎮守府豫備驅逐艦 驅逐艦 雄 梅</p>	<p>右特殊警備驅逐艦下定 吳鎮守府在籍 伊號第五百三三潛水艦 伊號第五百四四潛水艦</p>	<p>右特殊警備潛水艦下定 昭和二十年七月十五日 海軍大臣</p>	<p>右本籍ヲ吳鎮守府下定 昭和二十年七月十五日 海軍大臣</p>
<p>昭和二十年七月十五日 海軍大臣 佐伯防備隊ノ項哨戒特務艇ノ欄「第三百三十六號(吳)」ノ次ニ 「第三百三十七號(吳)」ヲ加フ (内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)</p>	<p>内令第六四六號 特設驅潛隊編制ハ之ヲ廢止セラル 昭和二十年七月十五日 海軍大臣 (内令提要卷一、一四九頁参照)</p>	<p>内令第六四七號 昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス 昭和二十年七月十五日 海軍大臣 伊勢防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第七海上丸(横)」ノ次ニ「第八日東丸(吳)」、第九日東丸(吳)、高津丸(吳)、第二高津丸(吳)、準丸(吳)」ヲ加フ 舞鶴防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第五十三播州丸(舞)」ノ次ニ「宮古丸(舞)」ヲ加フ 第十五根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「宮古丸(舞)」ノ次ニ「前丸」ヲ加フ (内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)</p>	<p>内令第六四五號 昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス</p>

内令第六四八號
特設海軍補充部ノ所管、所屬、名稱及所在地ノ件中左ノ通改正
セラル

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

表ノ末尾ニ左ノ如ク加フ

佐世保鎮守府	支那方面艦隊	第七海軍補充部	上	海
--------	--------	---------	---	---

(内令提要卷一、三八ノ六〇頁参照)

内令第六四九號

特設海軍補充部處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

表ノ末尾ニ左ノ如ク加フ

第七海軍補充部	中支及北支方面行動及所在ノ各部
---------	-----------------

(内令提要卷一、三八ノ五九頁参照)

内令第六五〇號

大東亞戰爭中艦船公試(試験)成績表ノ調製、提出及送付ニ關
シテハ艦船造修規則第百五十九條及第百六十一條ノ規定ニ拘ラ
ズ左ニ定ムル所ニ依ル

昭和二十年七月十五日

海軍公報 第五〇七九號 昭和二十年七月二十五日

一 艦船公試成績表ノ調製、提出及送付ニ關シテハ左表ニ依ル

施行者	公試成績	調製者	調製部	提出先	被提出者ノ處理	期限
海軍工廠	當該公試 員ノ首座委	三 通	海軍工廠 令長官	海軍工廠 令長官	海軍大臣 海軍工廠 長官	試及選 試部ノ心 ハ全部ノ ハ一月以 後公試以 外ノ公試 ハ當該公 試ノ終了 以後十日
内國製造部	内國部外 製造所長	(内一 紙)通	海軍工廠 監督長	海軍工廠 監督長	海軍大臣 海軍工廠 長官	試及選 試部ノ心 ハ全部ノ ハ一月以 後公試以 外ノ公試 ハ當該公 試ノ終了 以後十日
外製造部	外製造所長	(内一 紙)通	海軍工廠 監督長	海軍工廠 監督長	海軍大臣 海軍工廠 長官	試及選 試部ノ心 ハ全部ノ ハ一月以 後公試以 外ノ公試 ハ當該公 試ノ終了 以後十日

二 第百六十一條ノ艦船試験成績表ハ原紙共三通ヲ調整シ之方
送付又ハ提出要領ヲ前項ニ準ジ次ノ通改ム

- 一通ヲ艦政本部長ニ提出ス
- 一通ヲ當該艦船長ニ送付ス
- 一通(原紙)ヲ契約元海軍工廠長へ提出シ用済後ナルベク速
ニ所屬鎮守府ノ海軍工廠長へ移管ス

(参照) 艦船造修規則六九頁

内令兵第三五號

昭和十六年内令兵第四二號別冊火藥火工兵器取扱規則中左ノ通
改正ス

昭和二十年七月二十四日

海軍大臣

第七條表中九三式二號無煙火藥ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

二式一號無煙火藥	八年未滿
二式二號無煙火藥	

官房經第四三四號

大東亞戰爭死歿者ニ特別賜金トシテ交付スル公債ノ取扱ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルベシ

昭和二十年七月二十三日

海軍大臣

一 大東亞戰爭死歿者特別賜金（以下賜金ト稱ス）トシテ交付スル公債ノ保管出納ヲ爲サシムル爲海軍省經理局及海軍經理部ニ特別賜金公債取扱官吏（以下取扱官吏ト稱ス）ヲ置ク
前項ニ依ル取扱官吏ノ命免等ハ左ノ區分ニ依ル

職名	取扱官吏	命免者	報告先
海軍省經理局	海軍省經理局第三課局員	海軍省經理局通常物品出納命令官	海軍省經理局長
海軍經理部	海軍經理部部員	海軍經理部（又ハ同支部）通常物品出納命令官	海軍經理部長
（又ハ同支部）			

二 各取扱官吏ノ特別賜金公債取扱區分ハ昭和十七年海軍省告示第四號死歿者特別賜金賜與規程第八條及第十二條ノ規定ニ依ル

三 各取扱官吏賜金給與ノ發令アリタルトキハ特別賜金賜與其中書及特別賜金受給資格者調書寫（海軍省人事局又ハ海軍人

事部ヨリ送付）ニ依リ公債發行請求書ヲ大藏省ニ提出シ當該公債ヲ最寄ノ日本銀行本店、支店又ハ代理店ヨリ受領スベシ
四 各取扱官吏ハ特別賜金公債ヲ受領者又ハ代理受領者ニ交付ノ上ニ特別賜金領收證書（別紙）ヲ徴スルモノトス
五 他ノ法令又ハ本手續ニ定メタルモノノ外保管、出納、計算證明等ニ關シテハ海軍通常物品會計規程ヲ準用ス

附則
本令ハ昭和二十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別紙添）

官房經第四三五號

大東亞戰爭死歿者ニ一時賜金トシテ交付スル國庫債券ノ取扱ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルベシ

昭和二十年七月二十三日

海軍大臣

一 大東亞戰爭死歿者一時賜金（以下賜金ト稱ス）トシテ交付スル賜金國庫債券ノ保管出納ヲ爲サシムル爲海軍省經理局及海軍經理部ニ賜金國庫債券取扱官吏（以下取扱官吏ト稱ス）ヲ置ク
前項ニ依ル取扱官吏ノ命免等ハ左ノ區分ニ依ル

職名	取扱官吏	命免者	報告先
海軍省經理局	海軍省經理局第三課局員	海軍省經理局通常物品出納命令官	海軍省經理局長
海軍經理部	海軍經理部部員	海軍經理部（又ハ同支部）通常物品出納命令官	海軍經理部長
（又ハ同支部）			

二 各取扱官吏ノ賜金國庫債券取扱區分ハ昭和十九年海軍省告示第二十號大東亞戰爭死歿者一時賜金取扱手續（以下取扱手續ト稱ス）第二條ノ規定ニ依ル

三 各取扱官吏賜金給與ノ發令アリタルトキハ上奏名簿寫（海軍功績調査部ヨリ送付）ニ依リ賜金國庫債券發行請求書ヲ大藏省ニ提出シ當該證券ヲ最寄ノ日本銀行本店、支店又ハ代理店ヨリ受領スベシ

四 賜金ハ受領者又ハ代理受領者ヨリ賜金請求書ノ提出ヲ俟テテ之ヲ交付シ受領者又ハ代理受領者ヨリ取扱手續第六條第二項ノ規定ニ依ル賜金國庫債券收證書及現金領收證書ヲ發スベシ

五 他ノ法令又ハ本手續ニ定メタルモノノ外保管、出納、計算證明等ニ關シテハ海軍通常物品會計規程ヲ準用ス

附則
本令ハ昭和二十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十九年官房經第八六二號ハ之ヲ廢止ス

○雜 款

○將旗掲揚
大湊聯合特別陸戰隊司令官ハ七月十日將旗ヲ大湊海兵團内ニ掲揚セリ

○廳舎、部隊移轉

海軍公報 第五〇七九號 昭和二十年七月二十五日

廳舎、部隊名	移 轉 先	移轉月日	記 事
第三百五十二設 營隊	朝鮮慶尚南道金 海郡碧瀾面	五月四日	五月四日上記ノ場所ニ移轉 旅順線浦驛下車（徒歩 約一時間半）支給上ノ勤務地 ハ慶尚南道鎮海邑トス 家族移轉先 郵便物發送先 朝鮮慶尚南道東萊郡龜浦 局氣付一丁式壹九
第二十一陸上檢 査隊	福岡市東區粕町 明光寺内	六月二日	旅順線浦驛下車 郵便物發送先 郵便局氣付海軍團 部
第五十二設營 隊	福島縣安達郡熱 海町熱海國民學 校内	七月二日	旅順線浦驛下車 電話約十五分 電話約十五分 熱海三九番
第五十二砲艇隊	青森縣下北郡佐 井村	七月四日	旅順線浦驛下車 大湊線下北郡乘換大畑線 大湊線下北郡陸路四三、八 新徒歩約一時間四三、八 青森縣下北郡佐井局氣付 郵便物發送先 青森縣下北郡佐井局氣付

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	記 事
第二十二海軍航空隊 航空隊分工場	宮崎縣室町市赤 江青年學校内	七月五日	
佐世保海軍經理 部庶務課	人吉市薩摩瀬相 良別邸	七月一日	第二隊（検査）關係事務

2605

佐世保鎮守府司令部南九州出張	鹿兒島市宇宿町(舊鹿兒島海軍航空隊跡)	七月二〇日	旅行順路市電勝田驛下車
大湊聯合特別陸戰隊司令部	青森縣下北郡田名部町大湊海兵團内	同	旅行順路大湊線下北驛下車徒歩約十五分 電話大湊海兵團交換幕僚室六六番、六七番 副官部六六番
舞鶴海軍工廠富山分工場	富山縣富山市西宮七番地(日本海船渠工業株式會社跡)	同	
近畿海軍航空隊	奈良縣山邊郡朝和村大和航空基地	七月三日	郵便物發送先奈良縣山邊郡朝和村大和航空基地「ウ七六八」 七月二日上記ノ場所ニ進駐 旅行順路常磐線石岡驛乘換參宮鐵道常陸小川驛下車徒歩約三十分 郵便物發送先茨城縣東茨城郡常陸小川郵便局「ウ七五五」
第五十五魚雷調整班	茨城縣東茨城郡橋村大字橋谷	七月二〇日	
○事務所撤去			
第二十二號輸送給糧裝具事務所		六月二三日	
第二十三號聯合航空隊殘務整理班		七月一〇日	
第一百七十四號輸送給糧裝具事務所		七月一四日	
第二百十七號海防給糧裝具事務所		七月一五日	
海防給糧生野給糧裝具事務所		七月一七日	
			○轉勤者赴任先 當魚雷調整班へノ轉勤者ハ左ニ依リ赴任センメラレ度 所在地 愛知縣滙美郡杉山村 旅行順路 豊橋驛乘換名古屋電鐵滙美線杉山驛下車徒歩約二十分 (第四十二魚雷調整班)
			○本日軍極秘海軍公報第一六九號(乙配付)發行セリ 配付先 各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、同支廠

2606

(官房經第四三四號別紙)

特別賜金領收證書

(本書ハ海軍省經理局又ハ海軍經理部ニ差出スベシ)

(昭和二十年七月二十五日秘海軍公報)

一金

四也

内 譯

帝國三分利公債證書額面

千圓券

五百圓券

百圓券

五十圓券

二十圓券

四也

番

番

番

番

番

枚

枚

枚

枚

枚

但シ昭和 年 月 日

日發令

大東亞戰役ニ關スル特別賜金

右正ニ受領候也

昭和 年 月 日

(現住所)

(官氏名印)

海軍省 司令長官 殿

2607



海軍公報 第五〇八二號

昭和二十年七月二十八日(土) 海軍大臣官房

○訓示

官房軍機密第七一六號

部内一般訓示

帝國海軍軍人ガ飽ク迄寇敵ヲ擊滅シ皇國護持ノ信念ニ燃エツツテ本大臣ノ堅ク信ジテ疑ハザルトコロナルモ今次敵米英等國ノ謀略的共同聲明ニ依リ些少タリトモ必勝ノ信念ニ動搖ヲ來サザランガ爲茲ニ重テ訓示ス

主計長 給與金 調査

今ヤ帝國海軍ノ戰備ハ着々進捗シ滿ヲ持シテ醜敵一蹴ノ態勢ニアリ正ニ諸官ノ卓越セル統率ト各員ノ必勝ノ信念トニ依リ益々此ノ態勢ヲ玉成シ飽ク迄戰争ノ完遂ヲ期シツツアリ宜シク各員ニ愈々軍人タルノ操志ヲ堅クシ以テ一路各々其ノ本分ニ邁進スベシ

昭和二十年七月二十七日

海軍大臣

○綴 際

海人一機密第八號ノ二八

昭和二十年七月二十七日

海軍省人事局長

關係各所轄長殿

豫備士官專修科目變更ノ件通知

左記ノ者ハ孰モ六月十日附專修科目「飛行班」ヲ「要務班」ニ

秘海軍公報 第五〇八二號 昭和二十年七月二十八日

電報區別符「ヨヒ」ヲ「ヨヨ」ニ變更セラレ候

記

官等	氏名	専修別	舊	新	舊符	新符
少尉	白土健一郎	飛行班	要務班	ヨヒ 五五七	ヨヨ 五五七	
同	越塚信行	同	同	ヨヒ 五九〇	ヨヨ 五九〇	
同	岩切輝彦	同	同	ヨヒ 二九四七	ヨヨ 二九四七	
同	村田榮作	同	同	ヨヒ 二九二八	ヨヨ 二九二八	

教育機密第三一八號

昭和二十年七月二十六日

海軍省教育局長

各鎮守府 各警備府 參謀長殿

新造海防艇長豫定者講習ニ關スル件中進

當分ノ間新造海防艇長ニ對スル講習ニ關シ左記ノ通定ヲラレ候

記

一 目的
本講習ハ新造海防艇長豫定者ヲシテ艇長任命前艇長トシテノ任務遂行上必要ナル技能ヲ修得セシムルヲ目的トシ練成教育實施中ノ海防艇又ハ海防艦ニ乘艦セシムルモノトス
二 講習科目

海防艦長トシテ直接必要ナル事項

三 講習員及講習指導官講習場所

講習員	講習指導官	講習場所
海防艦長豫定者	第五十一戰隊司令官	第五十一戰隊各艦艇

四 講習期間

講習期間 二十日間ヲ標準トス

五 講習員ノ取扱

(イ) 海防艦長豫定者ハ舞鶴防備隊附トス
 (ロ) 海軍省人事局長ハ講習員ノ講習終了後ニ於ケル配員豫定艦名ヲ第五十一戰隊司令官ニ通知スルモノトス

六 報告

本講習ニ對スル報告ハ特令ニ依ル

艦本機密第二二號ノ九九〇一

昭和二十年七月二十七日

海軍艦政本部總務部長

關係 各海軍工廠總務部長
 各海軍工作部長
 海軍監督長 殿

新造艦艇、特務艦艇ノ性能審議報告ニ關スル
 件申進

昭和二十年五月二十日軍務第一機密第三九七號海軍省軍務局長申
 進ニヨリ處理スベキ首題ノ件ハ左記ニ依ルコトニ定メラレ候

記

海軍工廠長又ハ海軍監督長ハ審議成績判定セバ速ニ昭和十七年三月六日艦本機密第一二號ノ二三三九ニ準シ海軍大臣及海軍艦政本部長ニ電報報告スルト共ニ首席審議委員作製ノ審議報告書ヲ添付セル書類ヲ以テ海軍艦政本部長經山海軍大臣ニ報告スルモノトス尙右報告書ニハ寫三通(内一通ハ審議成績一括添付)ヲ添付スルモノトス

○ 雜 談

○ 事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	記 事
關東海軍航空隊	千葉縣木更津航空基地	六月十四日	郵便物發送先付七番武舊關東海軍航空隊ハ東海海軍航空隊トナレリ
佐世保海軍運輸部福岡出張所	福岡縣糟屋郡志免町第四海軍燃料廠内	七月七日	電話 宇美 一〇九番
第五百八十八號營隊	奈良縣磯城郡柳本町	七月〇日	旅行願路(電車)大阪線下車城東線(電車)橋下線下車井線(電車)奈良線下車奈良線(電車)本線下車井線
佐世保鎮守府衛生部	佐世保海軍病院内	七月五日	

○ 本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報

第五〇八三號

昭和二十年七月二十九日

〇令 達

達第一六八號

海軍應徵船員給與規則中左ノ通改正ス

昭和二十年七月二十七日

海軍大臣

第二條、第三條、第八條、第十三條、第二十六條及第三十九條
乃至第四十一條削除

第九條中「判任官以上又ハ判任官待遇以上ノ者ニハ」ヲ削ル
第三十三條中「判任官以上又ハ」ヲ削ル

第四十二條中「甲船員」ヲ「應徵船員」ニ改ム

第四十三條中「甲船員及第四十條ノ規定ニ該當スル乙船員」ヲ
「應徵船員」ニ改ム

第六表中「判任官待遇者」同三十五錢
ヲ

判任官待遇者	同三十五錢
雇員	同三十錢

ニ改ム

附則

本令ハ昭和二十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

(參照) 昭和二十年四月十八日秘海軍公報

秘海軍公報 第五〇八三號 昭和二十年七月二十九日

達第一七〇號

海軍勤続手当支給規則中左ノ通改正ス

昭和二十年七月二十七日

海軍大臣

別表備考第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五 海軍文官同待遇者ヨリ海軍武官ニ任用セラレタル者ニ支
給スベキ額文官同待遇者トシテ受ケタル額ヨリ少キトキハ

海軍文官同待遇者トシテ受ケタル額ヲ支給ス

附則

本令ハ昭和二十年五月十五日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(參照) 昭和二十年三月三日秘海軍公報

内令第五七九號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

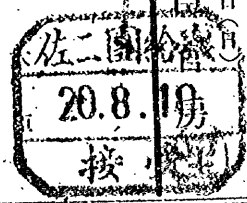
昭和二十年七月一日

海軍大臣

鎮海防備隊ノ項特設驅潜艇ノ欄「第十五日東丸(佐)」ヲ削ル
對馬防備隊ノ項特設驅潜艇ノ欄「久美丸(佐)」ノ次ニ「第十五
日東丸(佐)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二九頁參照)

八二五



2610

内令第五八〇號

昭和十八年内令第二二二三號航空兵器供給所ノ名稱及所在地ノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年七月一日

海軍大臣

第三十一海軍航空廠栗田補給工場ノ項ノ次ニ

〔第三十一海軍航空廠 京都府天田郡西中筋村字興 副知山補給工場〕ヲ加フ

(内令提要卷一、三〇ノ二四ノ四頁参照)

内令第五八一號

特設艦船部隊申左ノ通改正セラル

昭和二十年七月一日

海軍大臣

第二條第二號中「特設鎮守府特別陸戰隊」ヲ「特設特別陸戰隊」ニ改ム

第六十四條ノ八申「編成シ」ノ下ニ「某聯合特別陸戰隊(所在地名ヲ冠ス)又ハ」ヲ加ヘ「鎮守府」ヲ削ル

第六十四條ノ九第二項中「又ハ鎮守府司令長官」ヲ「鎮守府司令長官、警備府司令長官又ハ商港警備府司令長官」ニ改ム

第六十四條ノ十五中「鎮守府」ヲ削ル

第十五章ノ三章名中「鎮守府」ヲ削ル

第六十四條ノ十四 特設特別陸戰隊ハ鎮守府、警備府又ハ商港警備府ノ所在ノ地ニ之ヲ置キ第一特別陸戰隊、第二特別陸戰

隊(所在地ノ鎮守府、警備府又ハ商港警備府名ヲ冠ス)等ト呼稱ス
特設特別陸戰隊ハ當該鎮守府、警備府又ハ商港警備府ニ屬シ又必要ニ應ジ艦隊又ハ特設警備府ニ附屬ス
(内令提要卷一、四七頁参照)

官房第一〇九號

大正十五年官房第一〇九八號中「還納被服」ヲ「還納被服並ニ材料品」ニ改ム

昭和二十年七月二十七日

海軍大臣

(參照) 大正十五年官房第一〇九八號ハ還納被服ノ一部ヲ被服修補用トシテ供給ノ件(會計法規三卷二六四頁)

○通 牒

官房軍機密第七一五號

昭和二十年七月二十八日

海軍大臣

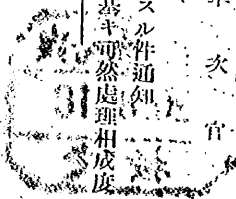
關係各廳長殿

土建義勇戰團隊編成運營要領ニ關スル件通知

首題ノ件陸密第四七六〇號陸軍次官通牒ニ基キ然處相成度

(別紙)

陸密第四七六〇號



昭和二十年七月九日

陸軍次官

海軍次官殿

土建義勇戰團編成運送要領ニ關スル件通牒

首題ノ件別冊ノ通軍管區參謀長宛通牒セラレタルニ付貴管下出先機關ニ右趣旨示達ノ上之方編成準備ニ關シ積極的ニ協力方配意相煩度

(別冊添)

官房機密第一三四號ノ三三

昭和二十年七月十五日

海軍省副官

關係各廳長殿

暗號圖書配付ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ特令セララルモノヲ除キ別冊暗號書現狀表第五五號ニ依リ處理相成度

追テ別冊ハ暗號書供給應ヨリ左ノ各部ニ配付シ配付殘部アリタル時ハ請求ニ依リ暗號圖書受給應ニ適宜配付差支ナキコトニ定メラレ候

各司司令部、地方海軍部、通信隊、航空隊、突擊隊、軍需部、同支部

海人一機密第一一號ノ三

昭和二十年七月二十七日

祕海軍公報 第五〇八三號

昭和二十年七月二十九日

關係各廳長殿

海軍省人事局長

文官教授等配員ニ關スル件申進

術科學校練習航空隊等ニ於ケル普通學教育ノ縮減ニ伴ヒ部内教授助教等ノ職員ヲ逐次工作廳其ノ他ニ轉用セラレアル處各部ニ於テハ可及的適正配置ヲ與ヘ之ヲ活用スルト共ニ戰局ノ現狀ヲ認識シ現配置ニ在リテ專心奉公ノ實ヲ學ブル様可然指導相成度

○雜款

○廳舍、部隊移轉

廳舍、部隊名	移轉先	移轉月日	記
鎮海海軍運輸部 釜山支部	釜山府大廳町二丁目二四番地東洋拓殖株式會社	六月八日	
鎮海海軍運輸部 馬山出張所	馬山府本町二丁目三〇番地(鎮海警備府海上交通保護部馬山出張所同一建物)	六月一日	
仙臺海軍監督官事務所	仙臺市土橋通二番地	同	電話 仙臺 二二三番
橫須賀鎮守府第十一特別陸戰隊	橫濱市戸塚區中野町一番地(大船部隊内)	七月六日	旅行預路 大船線下車徒歩的四十分行 第一燃料總廠隣接 郵便物送先 大船郵便局 氣付ウセ二八

八二七

2612

博多港警備隊 福岡縣糸島郡北崎村字宮ノ浦 七月二十日 旅行願路 鹿兒島本線博多驛下車徒歩の三時間、今宿驛下車徒歩の二時間、自動車を便今宿發、〇八〇〇、二二三〇、一七〇〇〇

吳海軍運輸部徳山支部 (新山) 大字徳山 (番地) 三七二六 (支店) 無鐵徳山支店内

電話 部外 徳山局 七六一番 部内 三燃交換

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所	記事
八月四日 〇九三〇	故海軍大尉大西太一外諸勇士	舞鶴海軍人事部長	舞鶴海兵團	佛式
八月九日 一〇〇〇	故海軍少將渡邊三郎外諸勇士	金澤地方海軍人事部長	金澤市東本願寺	同
八月十一日 一〇〇〇	故海軍大佐清水逸郎外諸勇士	新潟地方海軍人事部長	新潟市公會堂	同
八月十三日 二〇〇〇	故海軍少佐藤良策外諸勇士	山形地方海軍人事部長	山形市第四國民學校	同
八月二十七日 二二三〇	故海軍少佐地村卓一外諸勇士	舞鶴海軍人事部長	大津市平野國民學校	同

○本日軍械秘海軍公報第一七〇號(甲配付)發行セリ

○本日海軍公報發行セズ

(官房軍機密第七一五號別冊)

土建義勇戰團編成運営要領

(昭和二十年七月二十九日祕海軍公報)

一 本要領ハ軍令第二號國民義勇戰團統率令並ニ昭和二十年陸密第四三一五號國民義勇戰團編成要領ノ細部隸屬ノ特例等ニ關スル件達ニ基キ土木建築關係機關ニ於ケル義勇戰團隊ノ編成ニ關スル事項ヲ定ム

二 本要領ニ依リ編成スベキ部隊編成充當機關編成管理官編成擔任官別紙第一ニ準據シ編成ス但シ海軍作戦擔任地域内ニ在ルモノ以外ニシテ軍管區司令官ニ於テ海軍指揮官ニ配屬スルヲ可ト認ムルモノハ編成ノ上海軍指揮官ノ指揮下ニ入ラシムルモノトス

土建聯合義勇戰團隊ニハ地方名又ハ都府縣名ヲ冠シ土建義勇戰團隊及土建義勇戰團戰隊以下ノ隊名ハ軍管區毎ニ一連番號又ハ地方名ヲ以テ之ヲ呼稱ス

三 土建義勇戰團隊ハ土木建築勤務ニ服スルノ外狀況ニ依リ戰團兵站業務等一般作戦任務ニ服スルモノトス

四 職別工事業統制組合(勞務報國會職種別分會)中別ニ指定スルモノヲ以テ職別義勇戰團隊ヲ編成シ(別紙第二ニ依ル)都府縣土建聯合義勇戰團隊長ノ隸下ニ入ラシム

五 土建義勇戰團隊ノ勤務ニ關シテ努メテ戰時建設團ノ業務系統トノ一致ヲ圖ル如ク考慮スルモノトス之方爲軍管區司令官ニ隸屬スル土建聯合義勇戰團隊長ハ所要ニ應ジ業務ニ關シ地區司令官ニ隸屬スル土建聯合義勇戰團隊長ヲ區處シ又土建聯合義勇戰團隊長ハ所在地所管軍管(地)區司令官ノ命ヲ承ケ隸下ノ土建義勇戰團隊長ヲシテ所要ニ應ジ他ノ土建聯合義勇戰團隊長ノ指揮下ニ入ラシムル等適宜ノ處置ヲ講ジ置クモノトス

六 北海道(樺太ヲ含ム)ニ在リテハ北部軍管區司令官前諸號ノ要領ヲ準用シ適宜其ノ編成要領ヲ定ムルモノトス

- 七、地方土建聯合義勇戰團隊及都府縣土建聯合義勇戰團隊ノ運営ニ當リテハ勞務報國會及戰時建設團ノ機能ヲ一體的ニ運営スル如ク留意スルモノトス(木件ニ關シテハ厚生、軍需兩省ヨリ關係方面ニ對シ別紙第三ノ如ク指示セラレタリ)
- 八、陸海軍ノ直營工事現場ニ於テハ現場毎ニ職別組合員又ハ勞務供給業者ニ所屬スル勞務者ヲ以テ適宜義勇戰團隊ヲ編成シ都府縣聯合義勇戰團隊ニ隸屬セシムルト共ニ夫々陸海軍ノ現場指揮官ノ指揮ニ入ラシムルモノトス
- 九、土建義勇戰團隊編成及爾後ノ育成指導ニ關シテハ各經理部ヲ活用スルモノトス
- 十、編成完結セバ別紙様式ニヨリ速ニ陸軍大臣ニ報告スルモノトス

2615

土建聯合義勇戰團編成基準表

昭和二十一年陸軍省 昭和三十二年陸軍省 昭和三十二年陸軍省 昭和三十二年陸軍省					昭和二十一年陸軍省 昭和三十二年陸軍省 昭和三十二年陸軍省 昭和三十二年陸軍省					區分
現場職別組合員作業	職別組合	〇〇組作業現場	〇〇組	都府縣支部	前項組ノ作業現場	出張所	別紙第一共ノ二 =示ス綜合工事ノ 支店又ハ	地方建設團	編成擔當機關	
團戰隊	團戰隊	團戰隊	團戰隊	都府縣 義勇戰團 聯合	團戰隊	團戰隊	地方 義勇戰團 聯合	編成スル部隊		
官 令 司 區 地					官 令 司 區 管 軍					編成 管理 官 威
將ルス命指ノ官令司區地					指ノ官令司區管軍					編成 擔任 官 威
團戰隊長	團戰隊長	團戰隊長	團戰隊長	都府縣 義勇戰團 隊長	團戰隊長	團戰隊長	地方 義勇戰團 隊長	編成擔任者		
	統制組合	別ニ指定スル職別工事業						摘		要

三

備考

- 一 編成擔任者タルベキモノハ編成下令前ニ義勇召集シ下令ト共ニ土建聯合義勇戰團隊長トシテ土建聯合義勇戰團ノ編成業務ヲ擔任スルモノトス
- 二 都府縣土建聯合義勇戰團隊長ハ都府縣勞務報國會副會長ニシテ建設團都府縣支部長タルモノヲ以テ充ツルヲ本則トス
- 三 戰團戰隊ハ若干ノ區隊ヨリ成ルモノトシ區隊ハ人員概ネ五〇—一〇〇名ヨリ成ルモノトス
- 四 隊員ノ構成基準ハ概ネ左記ニ依ル(學徒勤勞報國隊他ノ産業部門ヨリ機動配置セラレタルモノ及農業要員ヲ除ク)ヲ本則トス
 1. 直僱工務員
 2. 職別組員又ハ勞務供給業者ニ所屬スル勞務者
 3. 半島人勞務者(集團移入及先住者)
 4. 其ノ他必要ト認ムル勞務者
- 五 作業現場トアルハ勞務報國會ニアリテハ事業所分會トシ職別組合トハ勞務報國會ニアリテハ職種別分會ヲ云フモノトス

業現場班 ○○組(組合)作

團戰區隊 ○○土建義勇戰

校

團戰隊長 ○○土建義勇戰

四

別紙第一共ノ二

土建義勇隊編成要領中別ニ指定スル第一次綜合工事業者左ノ如シ

地域	綜合工事業者
北部軍管區	清水 鐵道工業 菅原
東部軍管區	西松 鹿島
東部軍管區	清水 大林 熊谷 鐵道工業 竹中 大倉 西松 鹿置 間 錢高 鴻池 日産土木 飛鳥 安藤 戸田
東海軍管區	清水 大林 竹中 大倉 鹿島 間 佐藤工業 熊谷 勝呂 郷
中部軍管區	清水 大林 竹中 大倉土木 鹿島 錢高 鴻池 飛鳥 松村 熊谷 神崎
中國軍管區	大林 鴻池 藤田
四國軍管區	鹿島 間 玉藻
西部軍管區	清水 大林 大倉 西松 池田 玉藻

別紙第二

土建義勇戰團隊編成要領中職別工事業統制組合ヲ以テスル義勇戰團隊編成要領

六

一 職別工事業統制組合中大工、葺、土工、左官、柿板葺、板金、電気、配線工及軍管區司令官ニ於テ必要ト認ムル其ノ他ノ組合ヲ以テ職別義勇戰團隊ヲ編成シ職別工事業統制組合支部毎ニ義勇戰團隊ヲ編成ス但シ作業現場毎ニ綜合工事業業者ヲ以テ編成スル土建義勇戰團隊ニ直接包含セシムル組合員ヲ除ク

二 職別義勇戰團隊ヲ編成スルヲ適當トセザル地域及組合員ニ在リテハ昭和二十年陸密第四三一五號第一條ノ地域義勇戰團隊ニ加入セシムルモノトス

三 前號第一項職別義勇戰團隊ノ運用ハ義勇戰團隊ヲ組織スル工事現場ニ機動的ニ派遣勤務セシムルモノトス

別紙第三

地方總官宛電報

厚生省勸勞局長
軍需省整備局長ヨリ

勞務報國會及戰時建設團ノ緊密ナル連絡協調ヲ圖ルノ要アリ取敢エズ勞務報國會民間副會長ト戰時建設團都府縣支部
長トハ同一人ナラシムル様配慮相煩度尙之ガ爲勞務報國會民間副會長二名以上トスルモ業支ナシ
追テ其ノ他ノ點ニ關シテハ別途指示スル豫定

2620

七

秘

海軍公報

第五〇八四號

昭和二十年七月三十日

海軍大臣

○令 達

内令第五九三號ノ二

自第五號哨戒特務艇
至第九號哨戒特務艇

自第三十九號哨戒特務艇
至第四十三號哨戒特務艇

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定シタル處之ヲ解ク

第一百十二號哨戒特務艇

第一百二十四號哨戒特務艇

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定シタル處之ヲ解ク

第五十六號哨戒特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定シタル處之ヲ解ク

第五十七號哨戒特務艇

自第六十七號哨戒特務艇

至第七十一號哨戒特務艇

自第九十四號哨戒特務艇

至第九十七號哨戒特務艇

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定シタル處之ヲ解ク

昭和二十年七月二日

海軍大臣

内令第六五一號

昭和十三年内令第三四一號地方在勤海軍武
件中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

臨時地方在勤海軍武官ノ在勤地名ノ部中「境」ノ下ニ「仙崎」
ヲ加フ

(内令提要卷一、一八ノ六頁参照)

内令第六五二號

特設船舶警戒部令中左ノ通改正セラル

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

別表中「境」ノ下ニ「仙崎」ヲ加フ

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ二頁参照)

内令第六五三號

特設船舶警戒部處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

船舶警戒部 支部

秘海軍公報 第五〇八四號 昭和二十年七月三十日

八二九

2623

艦	船舶警戒部 艦支部	ニ改ム
仙崎	船舶警戒部 仙崎支部	

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ四頁参照)

内令第六五四號
海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件中左ノ通改正セラル

昭和二十年七月十五日

海軍大臣

横須賀鎮守府ノ部中

第一〇二海軍航空隊ノ項ヲ削ル

吳鎮守府ノ部中築城海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

近畿海軍航空隊

大和航空基地(奈良縣山邊郡)

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第六五五號

海防隊編制中左ノ通改正セラル

昭和二十年七月十六日

海軍大臣

第十一海防隊ノ項中「第七十五號」ノ下ニ「第七十九號」ヲ加フ

(内令提要卷一、七三頁参照)

〇 通 牒

官房第三一五號

昭和二十年七月二十九日

在京各廳御中

海軍省副官

吳、東京間文書交換使發着規程ノ件通知

首題ノ件別紙規程ニ依リ實施ノ旨吳鎮守府副官ヨリ通知有之候
追テ吳方面ニ送達スベキ文書ハ文書交換使東京發ノ前日中ニ
海軍大臣官房文書交換所ニ送付相成度

(別紙)

吳鎮守府法令第一四號

昭和二十年七月十七日

吳鎮守府司令長官 金澤正夫

吳、東京間文書交換使發着規程左ノ通定ム

吳、東京間文書交換使發着規程

第一條 吳軍港所在各廳ト東京所在各廳間ニ於ケル文書ノ迅速

確達ヲ期スル爲メ吳鎮守府ヨリ文書交換使ヲ發着ス

第二條 吳所在各廳ト東京所在各廳間ニ往復スル文書ハ特ニ緊

急ト認ムルモノノミ本文書交換使ニテ送達セシムルモノトス

第三條 文書交換使發着時刻ヲ左ノ通定ム

土曜便	區分	吳鎮守府	海軍省
(土)〇三三〇	吳發↓	(日)〇三〇	東京着
(水)〇五二九	吳着↑	(火)〇八三〇	東京發

<p>水曜便</p> <p>(水) 二二一〇 吳發↓ (木) 二〇二一 東京濱</p> <p>(日) 〇五二九 吳着↑ (土) 〇八三〇 東京發</p>	<p>備考</p> <p>列車時刻及事故ニ依リ變更スルコトアリ</p>	<p>第四條 吳軍港所在各廳ヨリ東京所存各廳宛ノ文書ハ出發當日一二〇〇迄ニ特便ニ依リ鎮守府文書交換所ニ持參スルモノトス</p> <p>第五條 東京ニ於ケル送達交換ハ海軍省文書交換所ニ於テ行フ</p> <p>第六條 東京ヨリ吳軍港所在各廳宛ノ文書ハ鎮守府文書交換所ニ於テ交換便ニ依リ當該公用使ニ送達ス</p> <p>第七條 文書ノ送達交換ニハ授受ノ認印ハ行ハザルモ左ニ依リ本府ニ送達原簿ヲ備置クモノトス</p>										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 15%;">年 月 日</th> <th style="width: 25%;">件名番號</th> <th style="width: 15%;">宛 先 廳</th> <th style="width: 15%;">差 出 廳</th> <th style="width: 30%;">公用使名</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>			年 月 日	件名番號	宛 先 廳	差 出 廳	公用使名					
年 月 日	件名番號	宛 先 廳	差 出 廳	公用使名								
<p>第八條 包裝、容積及重量ハ郵便法ノ規程ニ依ル尙必ズ宛先毎ニ包裝スルモノトス</p> <p>第九條 本派遣規程ニ依ル文書交換使ニハ常時左ノ證明書ヲ持參セシム</p>												
<p>證明書</p> <p>本人ハ吳一東京間軍務緊急公用使ナルコトヲ證明ス</p> <p>吳鎮守府 印</p>												
<p>第十條 文書交換使ハ吳海兵團ヨリ派遣スルモノトシ下士官ニ名トス</p> <p>吳九機密第三號ノ五</p> <p>昭和二十年七月二十九日</p> <p style="text-align: right;">海軍省軍需局長</p> <p style="text-align: right;">海軍省經理局長</p> <p style="text-align: center;">關係各廳長殿</p> <p style="text-align: center;">部内轉勤者ノ外食券取扱ニ關スル件通牒</p> <p>外地其ノ他遼遠ノ地ニ赴任スルモノニシテ航空機又ハ船待滞在等ノ爲豫定旅行期間ヲ超過スル惧アル場合ハ左記ニ依リ特ニ三日以内ノ外食券ヲ交付スルコトヲ得</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>一 廳長特ニ旅行豫定期間ヲ超過スル惧アリト認メタル場合ハ吳九機密第三號ニ依ル保有外食券ヨリ之ヲ交付シ得ルモノトス</p> <p>二 廳長前號外食券ヲ交付シタルトキハ毎月末取繕メ理由ヲ附シテ吳九機密第三號ニノロニ準ジ海軍省經理局、最寄海軍經理部又ハ海軍經理部支部ニ請求シテ之ヲ補充シ受クルモノトス</p> <p>三 各經理部及經理部支部ハ前號ニ準ジ海軍省經理局ニ請求シテ之ヲ補充シ受クルモノトス</p> <p>經契機密第四號</p> <p>昭和二十年七月二十九日</p> <p style="text-align: right;">海軍省經理局長</p>												

關係各廳長殿

酒保物品受込通帳ニ關スル件通牒
現下諸物品不足ノ狀況ニ鑑ミ酒保物品補給ノ適正ヲ期スル爲之ガ受込補給ヲ爲サントスルトキハ自今左記ニ依ルコトト致候條可然取計相成度

記

- 一 酒保物品補給擔任廳ハ管下艦船部隊學校病院等ニ對シ酒保物品受込通帳(様式別紙)(以下通帳ト稱ス)ヲ發行シ發行番號、所轄名ヲ關係經理部ニ通報スルモノトス
- 二 酒保物品ノ補給ヲ受ケントスル各部ハ通帳ニ現在員及希望品名ヲ記入シ主計長又ハ之ニ準スルモノ捺印ノ上補給擔任廳共ノ他補給ヲ受ケントスル各部ニ呈示スルモノトス
- 三 補給請求ヲ受ケタル各部ハ前同返ノ補給受込狀況ヲ照應ノ上之ガ補給ヲ爲スモノトス
- 四 補給應酒保物品ノ補給ヲ爲シタルトキハ所要事項ヲ記入捺印シテ返却スルモノトス

(別紙添)

經艦機密第六號ノ四

昭和二十年七月十日

海軍省經理局主任出納官吏

艦隊經費分任出納官吏殿

艦隊經費現況報告書提出ニ關スル件通知

會計規則等戰時特例ノ實施ニ關シ客年六月官房經第五九五號ヲ以テ艦隊經費現況報告書モ三分取總メ調製提出シ得ルコトニ

定メラレタル處爾後戰局ハ推移ニ伴ヒ書類ノ不到達極メテ多ク各分任出納官吏ヨリ送付ノ分割交付明細仕譯書寫、流用増減報告書及艦隊經費現況報告書ノ不到達數多キヲ加ヘ中央決算事務ニ支障ヲ來シ且外資金關係決算事務ニモ必要ナルト一方實施部隊ニ於テハ經費管理上毎月調製シ三分取總メ調製ハ却テ不便尠カラザル趣ナルニ付本報告ニ限り本年七月分以降當分ノ間毎月調製提出ノコトニ取計相成度

○雜 款

○部隊移轉

部 隊 名	移 轉 先	移 轉 日 日	記 事
吳 防 備 隊	廣島縣加茂郡川尻	七月二日	郵便物發送先川尻郵便局氣付
第五百三十八號	富山縣高岡市米島海軍山根部隊	七月二日	郵便物發送先富山縣高岡市高岡郵便局氣付海軍山根部隊
第五百三十五號	山形縣東置賜郡上郷村字上ノ郷	七月二日	郵便物發送先山形縣東置賜郡上郷村字上ノ郷上ノ郷郵便局氣付海軍山根部隊
第五百十九號	靜岡縣小笠郡東山田村	七月二日	七月二日上記ノ場所ニ進駐郵便物發送先靜岡縣小笠郡日坂村日坂郵便局氣付ウ七四八
第五百七十三號	青森縣下北郡田名部局	同	郵便物發送先田名部局氣付ウ六九
第三千二十四號	東京府下谷區谷中町谷中國民學校內	同	郵便物發送先下谷郵便局氣付ウ七四四

秘

海軍公報

第五〇八五號

海軍大臣

昭和二十年七月三十一日(火)

〇令 達

内令第六五六號

海防艦 生野

第二百十七號海防艦

右本籍ヲ佐世保領守府ト定メラル

佐世保領守府在籍

海防艦 生野

第二百十七號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年七月十七日

海軍大臣

内令第六五七號

海軍航空要員研究所左ノ通定メラル

昭和二十年七月二十日

海軍大臣

海軍航空要員研究所令

第一條 海軍航空要員研究所ハ土浦海軍航空隊ニ屬シ航空要員ノ素質ノ向上及航空適性ニ關スル研究、調査、技術的試験等

ヲ掌ル

海軍航空要員研究所ハ前項ノ外必要ニ應ジ同項ノ實施ニ必要ナル兵器及其ノ材料ノ造修、購買及供給並ニ要員ノ養成教育ニ關スルコトヲ掌ル

第二條 海軍航空要員研究所ニ總務課、會計課、第一課、第二課及第三課ヲ置ク

各課事務ノ分掌ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三條 海軍航空要員研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

課長

所員

附

前項職員ノ外必要ニ應ジ出仕ヲ置ク

第四條 所長ハ土浦海軍航空隊司令ニ隸シ所務ヲ總理ス但シ實驗、研究及技術ノコトニ關シテハ海軍航空本部長ノ區域ヲ承ク

第五條 所長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條 所長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ將校席次ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ横須賀領守府司令長官特ニ代理者ヲ置

祕海軍公報 第五〇八五號 昭和二十年七月三十一日

八三三

キクル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 課長ハ所長ノ命ヲ承ケ各課ノ事務ヲ掌ル

前項ノ外總務課長ハ所長ヲ佐ケ事務ヲ整理ス

第八條 所員、附及出仕ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第九條 海軍航空要員研究所ハ官廳又ハ民間ヨリ航空適性ニ關

スル技術ノ研究又ハ其ノ技術從事者ノ養成ノ依頼ヲ受ケタル

トキハ第一條ノ規定ニ依ル業務ニ支障ナキ限り之ニ應ズルコ

トヲ得

第十條 海軍大臣ハ必要ニ應ジ海軍航空要員研究所ノ出張所ヲ

置キ其ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第十一條 海軍航空要員研究所ノ定員ハ別表ニ依ル

(別表添)

内令第六五八號

海軍航空要員研究所處務規程左ノ通定ム

昭和二十年七月二十日

海軍大臣

海軍航空要員研究所處務規程

第一條 海軍航空要員研究所ハ常ニ海軍航空本部、海軍省教育

局、海軍省人事局、海軍省醫務局、海軍艦政本部、海軍技術

廠、海軍技術研究所、海軍航空隊及航空ニ關係アル部内各研

究實驗機關ト氣脈ヲ通ズベシ

第二條 所長ハ部下以下定員ノ配屬ヲ定メ横須賀鎮守府司

令長官ニ報告スルト共ニ海軍省軍務局長、海軍省人事局長及

海軍航空本部長ニ通報スベシ

第三條 所長ハ所務整理ノ爲所内服務内規ヲ定メ横須賀鎮守府

司令長官ノ承認ヲ受ケ之ヲ實施スルコトヲ得

第四條 所長ハ各種研究實驗及調査セル事項ニ對スル成果及所

見竝ニ必要ニ應ジ其ノ進捗ノ狀況及之ニ關スル意見等ヲ横須

賀鎮守府司令長官ニ報告スルト共ニ其ノ内容ニ依リ海軍航空

本部長、海軍省人事局長、海軍省教育局長、海軍省醫務局長

又ハ部内各機關ニ通報スベシ

第五條 所長ハ部外ノ各種技術的研究又ハ調査機關ト研究、調

査資料ヲ交換シ又ハ研究實驗ヲ部外ニ發表スル場合ニ於テ其

ノ機密ニ屬スルモノハ其ノ都度海軍大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條 所長ハ部内各部ノ要求ニ應ジ部下職員ヲ派遣シテ研究

所所掌事項ニ關係アル事項ノ指導ニ當ラシムルコトヲ得

第七條 航空要員研究所職員ニシテ海軍航空要員研究所令第六

條ノ規定ニ依リ部長ノ職務ヲ代理シタルトキハ代理者ハ之ヲ

海軍大臣ニ報告スベシ

第八條 總務課ハ左ノ事項ヲ掌ル

一 各課ノ事務ノ綜合統一及連絡ニ關スルコト

二 公文書類ノ接受及發送ニ關スルコト

三 所長及所ノ官印管守ニ關スルコト

四 機密書類ノ保管及整理ニ關スルコト

五 所内ノ保安及取締ニ關スルコト

六 人事、教育及勞務ニ關スルコト

<p>七 兵器ノ造修、準備、保管及供給ニ關スルコト</p> <p>八 一般設備、工作、印刷、電力等ニ關スルコト</p> <p>九 運輸、交通及通信ニ關スルコト</p> <p>十 研究及實驗ノ連絡ニ關スルコト</p> <p>十一 飛行實驗ニ關スルコト</p> <p>十二 他研究機關ノ調査及利用並ニ他研究機關トノ連絡ニ關スルコト</p> <p>十三 研究、調査及業績ノ整理ニ關スルコト</p> <p>十四 研究及調査資料ノ蒐集、整理及保管ニ關スルコト</p> <p>十五 文獻圖書ノ整理及保管ニ關スルコト</p> <p>十六 他課ノ所掌ニ屬セザルコト</p> <p>第九條 會計課ハ左ノ事項ヲ掌ル</p> <p>一 關係ノ豫算、決算、收入及支拂ニ關スルコト</p> <p>二 工事ノ現況及事業費ノ調査、報告及統計ニ關スルコト</p> <p>三 諸給與ニ關スルコト</p> <p>四 通常物品ノ保管及出納ニ關スルコト</p> <p>五 各種物件ノ購買、賣却、準備、貯藏、運搬等ノ契約ニ關スルコト</p> <p>六 海軍共済組合ノ事務及給與ニ關スルコト</p> <p>第十條 第一課ハ左ノ事項ヲ掌ル</p> <p>一 航空適性ニ關スル心理學的研究、實驗及調査並ニ其ノ應用ニ關スルコト</p> <p>二 心理學の見地ヨリスル航空要員ノ素質向上ニ關スルコト</p>	<p>第十一條 第二課ハ左ノ事項ヲ掌ル</p> <p>一 航空適性ニ關スル醫學的研究、實驗及調査並ニ其ノ應用ニ關スルコト</p> <p>二 醫學の見地ヨリスル航空要員ノ素質向上ニ關スルコト</p> <p>三 醫務衛生ニ關スルコト</p> <p>第十二條 第三課ハ左ノ事項ヲ掌ル</p> <p>一 航空適性ニ關スル體育的研究及調査並ニ其ノ應用ニ關スルコト</p> <p>二 體育の見地ヨリスル航空要員ノ素質向上ニ關スルコト</p> <p>內令第六五九號</p> <p>左ノ地ニ第一海軍燃料廠ノ分工場ヲ置ク其ノ呼稱及分掌事項左ノ通定ム</p> <p>昭和二十年七月二十日</p> <p>海軍大臣</p> <table border="1" data-bbox="542 1120 670 1780"> <tr> <td>分工場ヲ置ク地</td> <td>呼稱</td> <td>分掌事項</td> </tr> <tr> <td>神奈川県藤澤市</td> <td>第一海軍燃料廠藤澤分工場</td> <td>醱酵ニ關スル技術及生産等ニ關スル事項</td> </tr> </table> <p>官房第三六六號</p> <p>横須賀海軍工廠保管中ノ内火艇二隻、内火「ランチ」十二隻ヲ雜役船ニ編入シ其ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム</p> <p>昭和二十年七月三十日</p>	分工場ヲ置ク地	呼稱	分掌事項	神奈川県藤澤市	第一海軍燃料廠藤澤分工場	醱酵ニ關スル技術及生産等ニ關スル事項
分工場ヲ置ク地	呼稱	分掌事項					
神奈川県藤澤市	第一海軍燃料廠藤澤分工場	醱酵ニ關スル技術及生産等ニ關スル事項					

秘海軍公報 第五〇八五號 昭和二十年七月三十一日

八三五

海軍大臣

公稱番號	第一七三七號 第一七三八號	船種	内火艇 (七五米) (二五米)	所屬	橫須賀海軍港務部 (第一特攻戰隊司令部供用)	別定數	臨時附屬	記	事
自第五三〇四號 至第五三二五號	内火ランチ (十二米) (十二米)	同	同	同	同	同	同	同	同

○通・牒

軍務一機密第六五〇號

昭和二十年七月二十六日

海軍省軍務局次長

各領守府、各警備府參謀長
各地方海軍部長
各海軍監理長、海軍監督長(首席監督官)

地方火藥委員會ノ設置等ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ軍需省化學局長ヨリ左記ノ通來照有之候條之ガ協力ニ關シ可然取計相成度

記

火藥類ニ關スル地方行政機構ノ整備強化ニ關スル件
ニ關シ開議決定アリタル「火藥類ノ生産増強ニ關スル件」ノ方針ニ基キ火藥類ニ關スル地方行政機構ノ整備強化ニ關シ別紙ノ通

八三六

リ各地方軍需監理局長官宛通牒相成リタルヲ以テ何分ノ協力ヲ得度右依頼ス

(別紙)

二〇化第九九五號

昭和二十年七月五日

軍需次官

火藥類ニ關スル地方行政機構ノ整備強化ニ關スル件

本土戰場化ニ伴ヒ火藥爆藥類ノ需要益々増大シ之ガ充足ハ刻下ノ緊急課題タルニ鑑ミ兼ニ火藥類ノ増産ニ關シ開議決定アリ之ガ増産確保上各般ニ亙リ最優先的ニ取扱フコトトナリタル處之ガ増産ノ確保ハ生産工場ニ直結スル第一線行政機關ノ整備強化ト其熱意ニ懸ル所大ナルモノアリト認メラルルヲ以テ概ネ左記要領ニ依リ其機構ノ強化ヲ圖リ以テ目的達成ニ遺憾ナキヲ期セラレ度

記

一 地方軍需監理局ニ火藥類及火藥主原料ニ關スル行政シ一元的ニ統括スル課又ハ係ヲ特設スルコト
二 中央機構ノ整備ニ對應シ地方軍需監理局ニ其管轄地域内ニ於ケル陸海軍、地方廳、關係統制團體等ノ關係者ヲ以テ地方火藥委員會(假稱)ヲ設置シ、當該地域内ニ於ケル火藥類及

2630

<p>其ノ主原料ノ生産及配給(但シ軍用火薬ノ配給ニ付テハ之ヲ除ク)等ニ關スル綜合連絡調整機關ヲラシムルコト</p> <p>三 火薬用主原料タルアンモニア系製品、濃硫酸、ベンゾール類、過鹽素酸アンモン、グリセリン等ノ生産工場ニ對スル監理官(監督官)ノ増強ヲナスコト</p> <p>(備考)</p> <p>追而中央ニ於テハ別紙ノ通關係官廳間ニ火薬委員會ヲ設置スルト共ニ軍需省化學局内ニ臨時火薬對策班ヲ設ケ、陸海軍ヨリ所要ノ人員ノ參加ヲ得テ火薬類並ニソノ原料ノ生産配給(軍用火薬ノ配給ハ之ヲ除ク)ニ關シ強力ナル一元的運營ヲ實施スル方針ナリ</p>	
<p>○事務開始</p> <p>○雜 款</p>	
<p>事務所名</p> <p>第五百八十七設</p>	<p>設置場所</p> <p>和歌山縣海草郡加太町</p>
<p>事務開始日</p> <p>六月十五日</p>	<p>記 事</p> <p>郵便物發送先 和歌山縣海草郡加太町加太局氣付</p> <p>六月三日上記ノ場所ニ移轉 旅行順路 信越線小諸驛ニテ小海線ニ乗換岩村田驛下車岩村田驛三井國民學校ハ所 郵便時間三、五、四〇分 郵便發送先 長野縣北佐久郡岩村田郵便局氣付ウ六四登</p>
<p>第五百四設警隊</p>	<p>長野縣北佐久郡三井國民學校内</p>
<p>七月一日</p>	<p>記 事</p>
<p>同 前</p> <p>同 前</p> <p>同 前</p> <p>同 前</p>	<p>第一海軍衣糧廠 松本出張所 長野縣松本市今町二丁目三七八番地 群馬縣前橋市本町三九番地 (舊商工經濟會館内) 富城縣仙臺市東二番町六〇番地 島根縣八東郡來待村來待國民學校内 七月一日 七月八日</p>
<p>第五百三十九設警隊 (海軍原部隊)</p>	<p>下車驛 荷物發送 松本驛 電話 松本 一三一三番</p>
<p>同 前</p> <p>同 前</p> <p>同 前</p> <p>同 前</p>	<p>下車驛 電話 前橋 四一二二番</p>
<p>同 前</p> <p>同 前</p> <p>同 前</p> <p>同 前</p>	<p>下車驛 仙臺驛</p>
<p>同 前</p> <p>同 前</p> <p>同 前</p> <p>同 前</p>	<p>旅行順路 山陰線來待驛下車徒歩約二十分 電話 來待局 二番甲 島根縣八東郡來待局氣付</p>
<p>○本日軍極秘海軍公報第一七一號(乙配付)發行セリ</p> <p>關係各司部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、川棚突擊隊、關係各學校</p>	

2631

主食品減給ニ伴フ兵員體位低下防止上ノ參考事項

一 日課及作業ノ調節
(イ) 此ノ際比較的意義少キ動作ノ禁止

直接訓練ニハ必シモ必要ナラザル馳足等ハ新兵、練習生ニ極メテ多シ三十分ノ馳足ハ座學ニ比スレバ約二七〇「カロリー」歩行ニ比スレバ約二〇〇「カロリー」消費熱量差アリ、其校ニ於ケル練習生ノ一日消費熱量ハ約三、〇〇〇「カロリー」ニシテ内約八〇〇「カロリー」ハ特ニ必要ナラザル馳足ニ消費セル例アリ(軍醫學校實狀調査班報告ニ依ル)

(ロ) 睡眠時間ノ確保及休養時間ノ設置

睡眠時間ノ壓迫ハ消費熱量ヲ相當大ナラシム、又無意義ナル歩行ノ一時間ヲ單ニ横臥セシムルノミニテ約一〇〇「カロリー」ノ節約可能ナリ(同右)

二 生野菜中諸類ノ多食ト部内生産ノ増強

例 生野菜中葉菜、果菜、根菜等ノ供給歩率ヲ從來普通ノ歩率ニ依ルモノトスレバ平均一〇〇瓦ニ付約三二「カロリー」ト爲ル之ヲ假ニ諸類ノミ一〇〇瓦トスレバ約一〇〇「カロリー」(甘藷、馬鈴薯、里芋ノ平均値)ト爲ルヲ以テ熱量確保ノ面ヨリ觀レバ諸類ノ多食ハ極メテ有効ナリ但シ甘藷馬鈴薯ハ國家物動上ハ米ニ換算セラレ大半主食品トシテ計畫ニ算入セラレアルヲ以テ副食用トシテ特ニ増配ヲ受クルコト特殊小數地域ノ外ハ不可能ナリ相當外所要量ハ先ヅ部内生産ニ依ルヲ要ス

朝夕ノ體操ヲ廢シテ農耕ニ從事セシムルコトニ依リテ多少ニテモ増産シ得ルコトモ考ヘラル容細ナル時間ト狭小ナル空地ト雖モ之ガ利用ヲ極力勵行シ生産増強ノ要アリ

三 大豆混食ニ依ル熱量及蛋白ノ増加

例 減額サレタル米麥量ノ約1/4(一般民需ハ平均1/2以上ナリ)ヲ大豆ニ置き換フルコトニ依リ熱量約九七「カロリー」蛋白質約四四瓦ノ増加ト爲ル蛋白質ノ増加ハ所謂腹持チヲ良クスル効果大ニシテ而モ獸魚肉規定量確保困難ナル場合ニ於ケル代用トシテ極メテ有効ナリ、但シ丸大豆ノ健供食スルハ消化率ノ點ニ於テ損耗大ナルノミナ

ラズ下痢ヲ伴フコト多キヲ以テ主務局ニ於テハ一部粉末(黄粉或ハ生大豆粉)一部膨脹大豆トシテ供給手配中ナルモ各所轄ニ於テモ極力破碎或ハ納豆等加工供食ニ努ムルコト肝要ナリ、又飯ニ炊キ込マズ煎豆トシテ別ニ供卓スル等ノ方法ヲ採用スルハ消化ノ點ヨリ觀テ有効ナリ

四 無淘洗炊飯ト満腹感及營養價

(イ) 全然米ヲ洗ハズ糖付ノ儘沸騰セル湯ニ入レ表面ニ浮ブ荒芥、粗糠ヲ細目ノ網(粗布ニテモ可)ニテ掬ヒ除去シ其ノ儘炊キ上グル法ヲ無淘洗炊飯(民間ニ所謂國策炊ト稱スルモノニ類似)ト謂フ最初ハ糖臭ヲ感ズルモ馴レルニ從ヒ却ツテ風味ヲ覺ユルモノナリ

(ハ)(ロ) 無淘洗炊飯法ニ依レバ淘洗炊飯ニ比シ出來上リノ量約二〇乃至一五%増ト爲リ從テ満腹感ヲモ充シ得米ノ脂肪蛋白ビタミン等ハ何レモ主トシテ米粒ノ外表面ニ在リテ淘洗ニ依リ相當部分ヲ流失ス無淘洗ニ依レバ其ノ損失皆無ト爲リ營養價ヲ高メ得

五 咀嚼ノ勵行

從來屢強調サレ來レルモ尙勵行セラレザル尙多シ大豆ノ混食ヲ行フ際ニ於テ特ニ重要ナル點ナルニ付副長、軍醫長、主計長、分隊長等ノ指導者ハ特ニ親切心ト熱意トヲ以テ直接食卓ニ就キ是非共勵行方指導ヲ要ス

六 配食ノ適正化ト溫食ノ勵行

例 某校ニ於テハ規定上ハ増加食ヲ給セラレベキ筈ノ生徒、練習生ガ基本量ヨリモ少ク配食セラレ之ニ反シ増加食ヲ給セラレザル定員ガ基本量ヨリモ多ク配食セラレアリタル實例アリ又同一食卓ニ於テモ樹度ニ差異アル盛付行ハル實例アリ(軍醫學校實狀調査班報告ニ依ル)

此ノ例ハ特ニ多數ノ兵員ヲ擁スル所轄ニ於テ甚シク且主食及汁物ノ配當ニ付特ニ顯著ナリ、教班長、分隊下士官、食卓長等ノ徹底指導ヲ要スルト共ニ分隊長、分隊士ノ熱心ナル監督ヲ要ス又溫食ト冷食トニテハ「カロリー」ノ損得ハ勿論、味覺ノ點ニ於テ大ナル影響アリ多數ノ兵員ヲ擁スル所轄ニ於テハ適時配給困難ト認ムルモ出來得ル限り溫食ヲ給スル如ク工夫ヲ要ス

七 非常勞働食等ノ適切ナル運用

其ノ日ノ作業ト睨ミ合セ必要ニ應ジ半量、定量或ハ半數、總員等適切ナル運用ニ依リ合理的供食ニ努ムル要アリ規定量全額ヲ支給スルトキハ品種ニ依リ相違アルモ少クモ約三五〇「カロリー」以上ノ増給ト爲ル

(内令第六五七號別表)

(昭和三十年七月三十一日秘海軍公報)

海軍航空要員研究所定員表

考 備	計		附	第 三 課		第 二 課		第 一 課		會 計 課		總 務 課		長
	特 務 士 官	士 官、高 等 文 官		所 長	所 員	所 長	所 員	所 長	所 員	所 長	所 員	所 長	所 員	
一 所長ハ土浦海軍航空隊司令ヲ以テ兼補ス 二 當分ノ間總務課長ハ土浦海軍航空隊ノ副長ヲ以テ、會計課長ハ同隊主計長ヲ以テ、第二 課長ハ同隊軍醫長ヲ以テ兼補スルコトヲ得 三 特修兵ハ適宜トス 四 海軍大臣ハ必要ニ應ジ本表ノ定員ヲ臨時増減スルコトヲ得	二人	二十九人 内兼務四人	衛生中少尉 主計中少尉(主)	技 兵 少 中 科 尉 官 尉 佐	技 軍 醫 少 佐、軍 醫 大 尉 科 尉 官 尉 佐	技 軍 醫 中 少 佐 科 尉 官 尉 佐	技 少 佐、大 尉 師 尉 師	技 主 計 少 佐、主 計 大 尉 師 尉 師	兼 務 二	兼 務 一	兼 務 一	兼 務 一	兼 務 一	兼 務 一
	判 任 文 官	下 士 官	准 士 官	技 書 手 記	主 衛 工 機 整 兵 計 生 作 關 備 兵 兵 兵 兵 兵 曹 曹 曹 曹 曹	機 關 兵 曹 長 兵 曹 長	一	二	二	一	一	一	一	一
	十九人	五人		十四	五			六	一	一	一	一	一	